

ニス、ム大將軍ヲバ誰トカ見ル、宇多天皇ノ王子、一品式部卿敦實親王ヨリ九代ノ孫近江國住人、佐々木源三秀義ガ三男ニ、三郎盛綱也、平家ノ方ニ我ト思ハシ者ハ、大將モ侍モ落合テ、組ヤ組ヤト喚テ蒐入、散々ニ蒐ル、源氏ノ兵是ヲ見テ、海ハ淺カリケリ、佐々木討スナ、渡セ者共トテ、土肥、梶原、千葉、畠山、我先々々ト打入々々、五千餘騎向ノ岸ヘサト上ル、

〔遊囊賸記十〕藤戸渡ハ、潮聲鎮打ノ昔、難凌波濤トイヘルニ引替テ、ワヅカニ細流ノ橋ヲ渡行ク、柔碧ノ變トハ是等ノコトナルベシ、

〔日本書紀七景行〕二十七年十二月、日本武尊^略中到吉備以渡穴海、其處有惡神、則殺之、二十八年二月乙丑朔、日本武尊奏平熊襲之狀曰、○^略中吉備穴濟神、及難波柏濟神、皆有害心、以放毒氣、令苦路人、並爲禍害之藪、故悉殺其惡神、並開水陸之徑、天皇於是美日本武之功而異愛焉、

〔萬葉集略解十一上〕續紀養老五年、分備後國安那郡置深津郡、これより先、景行紀、日本武尊到吉備、以渡穴海と有、か、れば穴海は安那郡にて、此みちの亥りは備後也、

〔名所方角抄紀伊〕岩田川 熊野海道也

思ひやる袖もぬれけり岩田川渡りなれにし瀬々の白浪

〔熊野略記下〕後白河院

熊野へ参ラセ玉ヒケル時、岩田河ニテ讀マセ玉ヒケル、

岩田川渡ル心ノフカケレバ神モアハレト思ハザラメヤ

〔後鳥羽院熊野御幸記〕建仁元年十月十三日、入畫養宿所、馬自此所停被置、師自是步指渡石田河、先參一瀬王子候之、

〔和爾雅一下〕對馬島 對馬渡

〔名所方角抄對馬〕對馬 嶺、わたり、あさち山など寄合なり、

對馬渡

備後國
穴濟

紀伊國
岩田川渡